

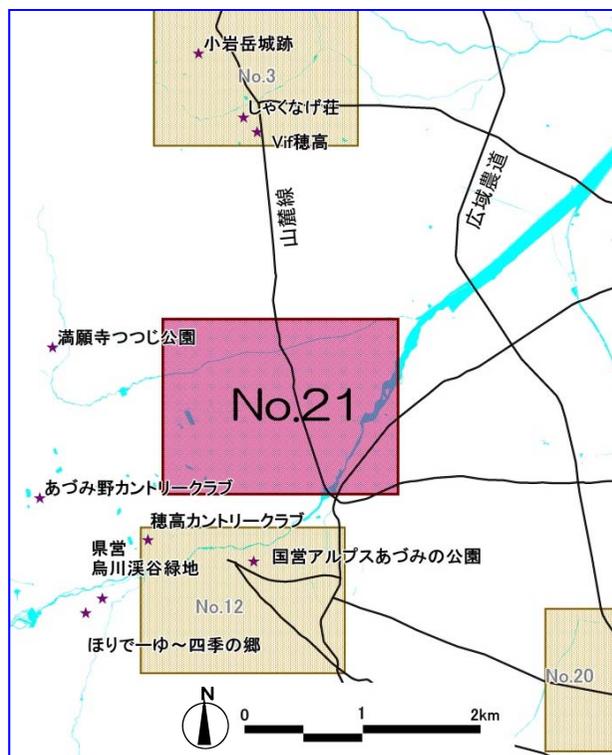
安曇野の原風景を巡る ふるさとウォッチングマップ

No.21

穂高牧地区

—古代からの歴史を誇る勅旨牧の里—

古代、天皇の勅旨により開発された牧場を勅旨牧といいますが、そのひとつである猪鹿牧のあったところが現在の穂高牧地区です。周辺エリアは古墳遺跡も多数発見されていて、安曇野を代表する名刹・満願寺や道祖神をはじめとする素朴な民衆信仰の石造文化財も多数存在する一方、国営アルプスあづみの公園の玄関口という新しい顔も併せ持つ、歴史の深みを感じさせてくれる静かな山麓の集落です。



編集・発行
安曇野ふるさとづくり応援団

URL <http://azumino-furusato.com>

※本マップは公式サイトからダウンロード可能です

◆コースタイム ※時間は歩速3km/時としての目安です（休憩含まず）

スタート 国営アルプスあづみの公園→約1.1km*22分→諏訪大明神→約0.5km*10分→本牧の石造物群→約0.4km*8分→旧西穂高小学校牧分教場跡→約0.4km*8分→稲荷社→約0.7km*14分→草深下村の大黒天・道祖神→約1.0km*20分→榎立柱→約1.0km*20分→**ゴール** 国営アルプスあづみの公園 【合計】約5.1km：1時間42分



かつて馬の牧場だった土地柄もあってか、地区内では今も数多くの馬頭観音像を目にすることができます♪

※私有地への立入はご遠慮下さい。



(a) 牧堰
古代に開削された歴史ある堰



(b) 道標
かつて山中にあった温泉場へと導く道しるべ



(c) 上手木戸の石造物群
屋形のなかで大切に守られる道祖神たち



(d) 川窪沢川
かつて草深村と牧村の村境でもあった川



(e) 若宮社
祠の傍らに立つケヤキの巨木が目印



① 国営アルプスあつみの公園

自然と地域文化に親しむことのできる公園として平成16年(2004)に開園。その後、大町・松川地区の開園を経て平成26年春にはこの堀金穂高地区でも第二期区域が新規オープン。各種の体験施設や草花との触れ合いを楽しめるほか、地域の歴史や文化も学べる安曇野の新しい観光拠点となっています。(要入園料)



里山の起伏を活用した園内

③ 本牧の石造物群

かつて村の郷倉があった跡地の山麓線沿いに建つ、道祖神をはじめとする石造物群。享和元年(1801)建立の道祖神は神殿の切妻屋根の懸魚(げぎょ)に菊花をあしらい、唐草を絡ませた梁や「道祖神」の文字が入った扁額など凝ったデザインで、神殿の柱の礎石が米俵になっているなど、五穀豊穰を願う村人の素朴な願いが表現された秀作です。



安曇野の代表的石碑が勢ぞろい

⑤ 稲荷社

山麓線より川窪沢川を上流側に入ったところに草深の住民により祀られる祠。伝承によると、村でチフスが流行した際に祈祷してもらった結果、同地にある岩は狐神の宿る岩で、荷役馬が休息時に岩に小便をかけたことに怒った神が病を流行させたのだと告げられたため、村人たちは稲荷社を建立し、岩をご神体として崇めることにしたのだそうです。



なにかの像のようにもみえる御神体の岩

⑦ 四至榊立標石

穂高神社の式年遷宮にて御遷宮100日前に執り行われる「四至榊立神事」。神社の四方の境界にて行われますが、その西の場所を示すのが牧地区に立つ榊立標石です。四至榊立神事は一里四方(実際は東西に細長い領域)を境界として榊を立て、此の地が清浄無垢な土地に生まれ変わるよう祓い清める儀式です。



四至榊立神事は厳寒期に行われる祭事

② 諏訪大明神

牧地区の産土神。集落の南端に位置し、創建年は不明ですが古文書によれば牧村(猪鹿牧)と草深の二村に分かれていた中世よりすでに両村ともに諏訪大社上社の所役に参加していることが知られています。一間社流造の本殿は平成25年(2013)に建て替えられたもので、大正12年(1923)造営の石段を上りきった正面に立つ杉のご神木の姿には圧倒されます。



銅板屋根が美しい一間社流造の本殿

④ 旧西穂高小学校牧分教場跡地

現在牧地区の公民館が建つ場所がかつての牧分教場跡地。明治5年(1872)に牧学校が開校して以来、昭和37年(1962)に西穂高小学校牧分校が閉校するまでの間、同地区の子供たちの学び舎でした。公民館前には立派な枝垂桜の古木が立ち、その根元には天満宮と天神社の文字碑が建立されています。



明治以前よりあるとされる枝垂桜

⑥ 草深下村の道祖神

かつて同地には享和元年(1801)作の道祖神がありましたが、これは焼毀してしまい、明治24年(1891)に現在の文字碑道祖神が再建されました。裏書きに「元碑享和元年焼毀再建 明治二十四年八月良辰 草深中」とあります。隣の大黒天は文久4年(1864)建立で、上部に梵字で大黒天を意味する「マハーカーラ」が記されています。



梵字入り大黒天とおむすび型(?)道祖神

『満願寺と栗尾道 そして十返舎一九』

牧地区の西方、山の懷に抱かれる安曇野を代表する名刹・満願寺。真言宗豊山派の寺院で正確な創建年は不明ですが、勅旨牧である猪鹿牧の成立に伴って建立されたのではないかと考えられています。歴史的文化財も数多く、なかでも境内入口にある欄干屋根付の微妙橋は日本三霊橋のひとつとされ、極楽浄土へ渡る橋として親しまれてきました。



栗尾道は豊科の成相新田宿から同寺までを結ぶ参詣道。江戸時代後期には当時の流行作家、十返舎一九がこの地を訪れ、栗尾道を通って満願寺に参詣。文化13年(1816)に出版された『続膝栗毛』のなかで、参詣の記録をもとにした一編が描かれました。【微妙橋ほか：市有形文化財】

